様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力 ・日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力及び、思考力や想像力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率　６５％ ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること。（全国標準学力調査より） CBT 調査結果　漢字・言語 正答率：５８．３％・４５．８％ ・漢字やその由来、文法についての理解が低い。	・情報と情報との関係を捉えたり、図表等を用いて整理したりする活動を計画的に取り入れる。説明文や話合い活動において、意見と根拠、原因と結果、共通点と相違点を明確にしながら情報を整理する学習を充実させる。 ・書く活動や、発表・スピーチ等の機会を増やすなど、自分の考えを表現する多様な活動を取り入れる。 ・漢字タイムを活用して、漢字については言葉や文脈の中で活用する活動を充実させる。文法については主語と述語、修飾関係、接続語等を文章読解や作文指導と関連付けて繰り返し扱い、基礎・基本の定着を図る。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・教科書資料や図書館資料を活用し、学習問題を解決するために様々な資料から情報を適切に調べ、まとめる力 ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を「自分事」として捉え、これからの自分の生活に生かそうとする力	・自ら疑問をもち、学習問題や学習計画をたて、見通しをもって解決しようとすること。 ・社会的事象を自分事として捉え、自らの生活に生かしたりこれからの社会の発展に貢献しようとしたりする態度を育み、未来社会を育成する力を育てること。	・単元の導入時、児童が自ら疑問をもったり、関心を高めたりできるように、資料の精選や発問等を研鑽していく。 ・単元の最後に、学習したことを生かし「今後の生活に生かせること」「自分自身が大人になったらどんな社会貢献ができるか」を話し合う時間を設定する。それによって、より理解を深めたり考えを広げたりできるようにしていく。

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・統合的・発展的に考察する力 ・問題の意図を把握し、正しく立式する力 ・筋道立てて考察する力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率　６７％ ・問題の条件に沿って抜け落ちなく筋道立てて考えを説明すること。 （全国学力・学習状況調査より） 標準学力調査 CBT　Ｉ７(02) 正答率４１.３％ ・問題文から基準量と比較量を正しく把握し、割合を求めること。（標準学力調査 CBT より） ・既習事項をもとに筋道立てて考えたり説明したりすること。 （１学期の学習評価より）	・単元のはじめに既習事項を振り返る活動を取り入れ、新たな問題を解く際に活用できるようにする。 ・解き方を教えるのではなく、言葉・図・式で解き方を説明する活動を多く取り入れる。 ・問題文を正しく解釈し、必要な情報を整理してから立式させる。

理科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自然の事物、現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能 ・理科の見方・考え方を働かせた問題解決の力	・実験の方法を発想し、表現すること。 ・比較、関係付け、条件制御、多面的に考えるなどの考え方を働かせ、自然の事物・現象に関わること。	・問題に対して根拠のある予想や仮説を発想することで、実験の方法を考えやすくなるようにするとともに、児童の考えた方法を実際の実験に取り入れるようにする。 ・問題を見いだし、予想や仮説をもち、その解決方法を考えたり、知識を関連付けてより深く理解したりする姿を価値付けるとともに、児童の思考の流れを意識した授業展開を行う。

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

生活科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・具体的な活動や体験、他学年や地域の人との交流を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにする資質・能力	・自然との関わりや生活体験が少ない。 ・自分と地域との関わりに気付いている児童が少ない。 ・気付いたことを表現して伝えることが難しい。	・校庭や公園等の自然に親しんだり、季節ごとの変化を感じたりできるような指導計画を立て、自然のよさや、生活との関わりに児童自ら気付けるようにする。 ・町会との交流活動を継続して取り入れ、地域との関わりの機会を増やすようにする。 ・試行錯誤する活動の楽しさや満足感を得られるような指導計画を立て、自らの考えを伝えられるよう環境を整える。 ・国語科との連携を図り、観察カードなどに見たもの・感じたものをどのように表現するか、書き方について指導する。

音楽	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽的な見方や考え方を働かせながら、思いや意図をもって表現を追求したり、楽曲や演奏のよさを見いだし、音楽を味わったりする資質・能力。	・音楽活動に対する興味・関心の持続が難しく、自ら学ぼうという姿勢が薄い。 ・表現をより良くしようという意識や工夫が少なく、試行錯誤しながら学習を深めることが難しい傾向がある。	・様々な学習形態を取り入れることで自身のペースで学習が進められるようにする。 ・友達と協働する活動を通して多様な表現に触れ、自身の表現を工夫できるようにする。

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

	・知識や技能、既習事項、自分のイメージなどをもとに、どのように表すのか試行錯誤をしながら取り組む資質、能力。（思考力、判断力、表現力）	・９０％以上が、図工が好き、図工が分かる、安心して表現できるなど回答をしているが、その意欲や思いを、試行錯誤につなげることに個人差が大きい。 ・興味・関心をもつが、継続しない。	・複線型の学習を取り入れることで、それぞれが自分の学びを自分でつくる態度を育てる。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力	・実践や活動には意欲的に取り組むが、知識や技能の習得に個人差がある。 ・身に付けた知識や技能を、日常の生活に生かしたり、SDGsを意識した生活を身に付けたりすること。	・身に付けさせたい資質や能力を明確にし、児童が知識や技能に価値を感じながら習得できるような学習活動の充実を図る。 ・家庭生活を大切にし、習得した知識や技能を使って日常生活の課題を解決したり、生活をよりよくしようと工夫したりする態度を養う学習活動の充実を図る。

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

体育	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、児童一人一人が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む。	・「体育の授業は楽しいと思いますか。」という項目は、 全学年で肯定的な評価が８５％を超えている。 ・「運動やスポーツをどのくらいしていますか。（学校の体育の授業をのぞきます。）」の項目では、「しない」や、「月に１～３回」と回答している児童の割合が、全学年で１０％程度いる。運動に進んで取り組む児童とそうでない児童の二極化が見られる。 ・体力調査の結果から、D･E 評価の児童が、男子は２５%、女子は、１４％となっているため、基礎的な体力向上を図る必要がある。	・全ての児童が運動や遊びにおける楽しさや喜びを味わうことができるような場の工夫や学習過程の設定をする。 ・OJT で体育学習について若手教諭を中心に、教員全体が学ぶ時間を設定していく。 ・自己の適性等に応じた「する・みる・知る・支える」の多様な関わり方を身に付けさせるために、ただ運動をするだけでなく、運動をしていく中で他者との関わりを充実させた体育授業の展開をする。 ・課題の発見とその解決に向けた学習過程を通して、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を高めていく。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・外国語の音声や表現に慣れ親しみ、身近で簡単な事柄について目的や状況に応じて、外国語を用いてコミュニケーションを図る能力 ・発達段階に応じて、自国や他国の伝統や文化等について学ぼうとする態度	・個人の能力の差が、学年が上がるにつれて顕著になってくること。 ・コミュニケーションに苦手意識があったり、抵抗感があったりする児童への支援が難しいこと。	・身近な事柄に関わる単語や表現を、多く取り入れたチャンツを使用し、楽しみながら外国語の学習や文化を知る学習を設定する。 ・NT と連携して授業内容の充実を図る。(フォニックスの書き取り・振り返りシート等) ・４技能のコミュニケーションスキルを高めるために、ICT を活用しながら会話をしたり発表したりとバランスよく学習場面を設定する。 ・学習時間に限らず、日常的に外

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

			国語活動に取り組む機会を設け(インタビューシート、コミュニケーションすごろく)、自分の考えや理由を相手に話して伝えられる能力の育成を図れるように工夫する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	学習状況調査において、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の項目では肯定的な回答が８５％を超えているが、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目では否定的な回答が３０％を超えている。多面的・多角的な見方や考え方を受け止めることに課題がある。	・一人で考える時間を確保した上で、ペア・グループ・全体交流へと段階的に対話活動を設定する。 ・自分と異なる意見の根拠やよさに着目し、自分の考えとの共通点や相違点を整理して振り返る活動を充実させる。 ・多様な考えを板書やICT等で可視化し、互いの考えを尊重しながら道徳的価値について深く考える授業づくりを推進する。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・集団や自己の生活・人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成、意思決定する力。 ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、生活および人間関係をよりよく形成する力。	・学級会等の話し合い活動の中で、建設的な話し合いをし、合意形成を図ること。 ・目的に沿った主体的な取り組みや自己実現に向けた行動力。 ・異学年交流の機会が少なく、縦のつながりが弱い。また、相手に合わせて伝え方を工夫するなどの相手意識も育成する必要がある。	・よりよい生活を築くために、計画的に学級会等の合意形成をする活動や自分たちでルールをつくって守る活動などを一層重視する。 ・自らよりよい学級生活の実現に取り組む意欲を育むとともに、集団の一員としての自覚や責任感を高め、勤労を重視する観点から係活動とともに、日常の清掃などの当番活動も計画的に指導できるようにする。

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

			・活動グループを縦割り、少人数にして活動内容を分けたり、役割分担をしたりする。 ・教員がペア学年会を実施し、異学年交流(学習内容の発表やチャレンジジャンプの合同練習等)を計画的に行うことで、相手を意識した行動ができる児童を育てる。

様式１

港区立芝小学校

令和８年度　授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・探究的な学習の過程における、課題の解決に必要な知識・技能 ・実社会や実生活の中で自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を集め、整理・分析した上でまとめ、表現する力 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする態度を育み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする態度	・発達段階における児童の実態を踏まえ、地域の実情を考慮したうえで、児童が主体的に追究したいと思えるようなテーマを設定すること。 ・課題を自分事として捉え、解決に向けて主体的に取り組むこと。 ・学習の成果を社会参画につなげること。	・「総合的な学習の時間」の意義や取り組み方について年度の初めに指導し、自分たちで学びを創れることに対して児童が期待をもてるようにする。 ・児童が主体的に AAR サイクルを回しながら学習を進めていくことができるようにするために、学習の手引きを作成・活用する。 ・近隣施設の活用、地域の方へのインタビュー、区役所の方への協力要請など、身近な地域社会との接点を学習計画の中に意図的に盛り込み、社会参画に向けての児童の意欲を高められるようにする。